

カメラ探訪

ふるさとの心

その6 本 妙 寺



ふるさとの通信

ふるさとはヨカバツテン

外園 一人

「新聞記事を肌で感じられるところへ行ってひと仕事してきます。」と言い残して水俣を去ってからもう十三年になる。

れんげ畑や畔道で蒸気機関車を見送ってくださいだったご父兄や生徒達の温情は、今なおさめることがない。水俣には、人の心を豊かにする人のまじわりと自然の潤いがあった。

天草育ちで、中学三年生になって初めて汽車を見た。そして、京都の大学へはいつてから初めてひとりで電車に乗った。

十年前こうだったのだから、今度はひとりで地球をひと回りしてみようと思って、ヨーロッパからアフリカへの旅に出たのも、今思えば全く無知と冒険心のせいであった。

諸国のバスに乗り、船をつかい、汽車や飛行機を乗り次いで各国を回っている間に何回も故郷を想い出した。

熊本には、海があり、平野があり、良い水がある。阿蘇を初め数えれば限りがないほど美しい山がある。

それにも増して、ふるさと熊本には、友がいる。わたし達を育ててくれた人々がいる。それをわたしは大切にしたい。

「火の国・くまもとの人は、燃えるが如き情熱と意欲がある」と言われているが、いい加減な人と意地だけのモッコスもいる。生活の区切りと精神的弾力性を大切にしたいと思っている。

天草高校・京都教育大学卒業
大阪府教育委員会勤務 指導主事

熊本市の西方、中尾山にある本妙寺は加藤家の菩提寺。参道には石灯籠がいっぱい並んでいる。